

《横浜市感染症臨時情報》風しん第12報

風しんの報告数が非常に増加しています。

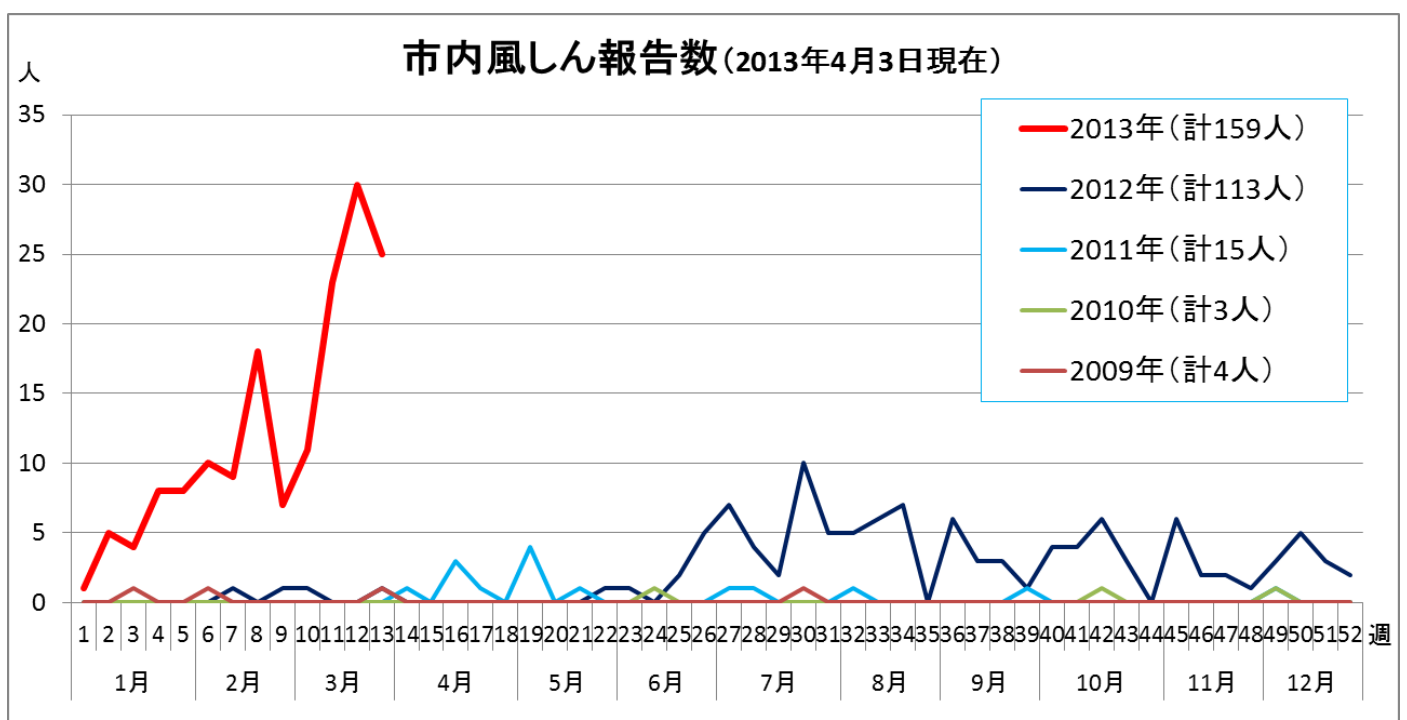
予防接種を受けましょう！

- ◇ 流行の中心は成人男性です。流行を抑えるには女性だけでなく、**成人男性の予防接種が重要**です。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風疹にかかると、**障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性(先天性風しん症候群)**があります。
- ◇ 麻しんの免疫を確実にする効果もありますので、**麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)**での接種(自費)をお勧めします。
- ◇ MR ワクチンは、**小児と同じ**です。小児の定期予防接種を実施している医療機関※に接種をご相談ください。

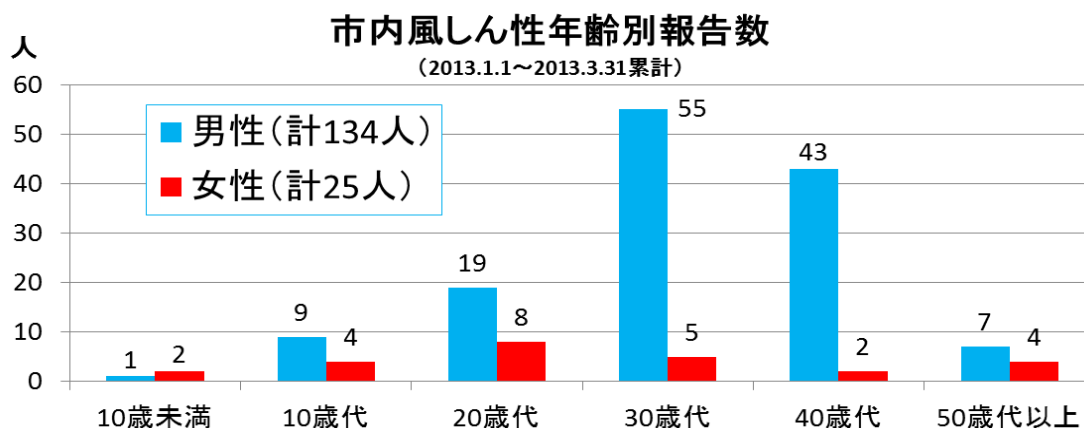
※ 市内予防接種協力医療機関 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination.html>

風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診しきちんと診断を受けましょう。

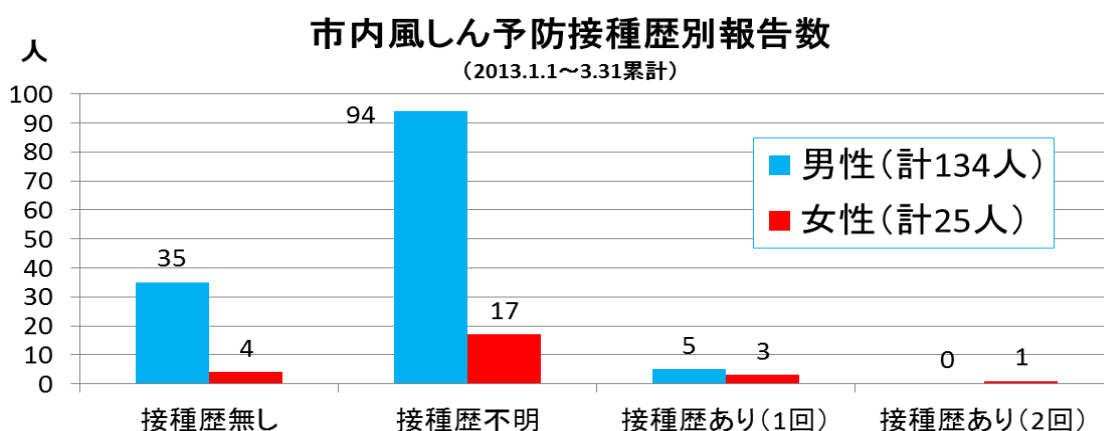
1 市内流行状況: 昨年から流行していますが、**今年は既に、昨年の報告者数を上回っています。**



2 届出患者の性年齢別状況:患者のほとんどが男性(84.3%:2013年の患者159人のうち134人が男性)で、特に30~40歳代の報告数が多くなっています。



3 予防接種の接種状況:予防接種歴が確認されたのは9人のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。**特に、男性では96.3%(男性134人中129人)で予防接種歴が確認されませんでした。**



4 先天性風しん症候群の発生について:市内では昨年度、今年度とも報告はありません。全国では、今年に入り3件報告されています。

5 風しんの予防接種について

○定期予防接種(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。標準的な接種期間は以下のとおりです。

1期:1歳以上2歳未満

2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

麻しんは感染力が強く、重症になります。麻しん撲滅のためにもMRワクチンで受けましょう!

○任意予防接種

・風しんの定期予防接種は昭和52年から開始されましたが、当時は対象が中学生の女子のみであったため、現在30歳代後半以上となる男性は定期予防接種の機会がありませんでした。また、平成6年に予防接種法が改正された際、男女ともに接種対象になりましたが、現在の20歳代から30歳代前半の男性の接種率は低く、これらのことが現在の流行に影響していると考えられます。妊娠中の女性が風しんに感染し、生まれてくるお子さんが先天性風しん症候群になることを防ぐため、周囲の大人(特に男性)が予防接種を受けることが大切です(任意予防接種となります)。

・風しん予防接種の記録がない、あるいは風しんHI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の方は予防接種を受けることをお勧めします。

(風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 <http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>)

・妊婦が風しんの予防接種を受けることはできません。ワクチン接種後は2か月間の避妊が必要です。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9815